

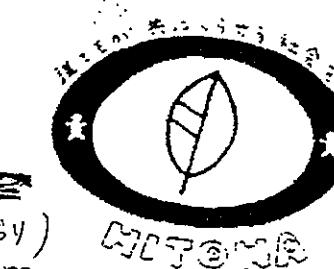
2018年(H30年)

10月

No. 322

ひとはつうしん

(ホームページアドレス) <http://hitoha-fukushi.com> (メールアドレス) honbu@hitoha-fukushi.com



社会福祉法人 ひとは福祉会

〒739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地

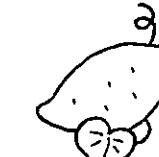
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

「ひとはのみそと和高さん」

ひとはの創設期、俗に無認可作業所といわれていた時代、活動の一環として商品の仕入れ販売をしていました。その頃の志として「ないものねだりはしてみる」「あるものを活かす」ということを掲げていました。そんな中で、ひとはらしさを活かす商口の開発をめざし、「みそを大豆の生産から製品までできたらいいね」と夢想し、満得寺住職下門さんに和高武さんを紹介してもらいました。和高さんは笑顔を絶やさず私の話を聴いてくれましたが最後にやんわりと「味噌はね、生き物よ。そう簡単に素人にてくれるもんじゃないんだよ」と諭してくれました。そして代案として「じゃあ、うちがつくってあげるから、販売元をひとはにしたらどうかね」と提案してくれました。「ひとはのみそ」のスタートです。「ひとはのみそ」はおかげで好評を博し、ひとはと応援してくださる方々の架け橋の役割を果たしてくれることになります。

和高さんは文化人でもあります。叔父にあたる人が野に生きる画家和高節二ということもあります。父の和高節二は多くの薰陶を受け、おまけに節二の次男さんを紹介してもらいました。和高節二が生まれ故郷である向原をいかに大切にしてきたかということを学び、その地に生きる文化を地生文化と呼び、自らが自分らしく生きる文化を自生文化と呼ぶ名称が生まれ育つ機会となりました。その和高さんへ道しまいました。ひとはは、和高さんが残した遺産である地生文化と自生文化をしっかりと受け継ぎ、社会に発信していくたいと篤いです。

(理事長 寺尾文尚)



(ひあくらふ 光川美希)

第17回ひとはまつり

天気予報でまつり当日は雲行きが怪しいと不安の中、前日にはゲリラ豪雨…夕方、自治会きららの役員をはじめ実行委員数名が集まり、明日のまつりを実行するか話し合いの場を持ちました。先の西日本豪雨の影響を考え、近隣に避難勧告が出た場合は止むを得ず中止にしようという決断に。当日の朝、隣町に避難指示が出たため、残念ながらまつりは中止となりました。この日は机や椅子の返却に餅つき、ホーム食堂ではフランクフルトにやきそばなどが出ました。食材の購入タイムではホームのきららの仲間も、まつりで販売予定だったジュースを購入し賑わいました。

今回中止になったことで後援会の皆さまはじめ、たくさんの方々と会う機会がなくなり、大変残念に思いました。準備にご協力くださいました皆さま、ありがとうございました。(実行委員 たけうちひろみ)

竹内宏美)

「子どもの力ってすごい!!」

ひあくらふの子どもたちと一緒に、クッキングの活動でホットケーキ作りをしました。卵わりに挑戦した3歳のゆいとくん。見事!上手にハッカーンと成功しました。上手にわれた事で自信をつけたゆいとくんはそれ以降、ホットケーキ作りやお好み焼きなど卵わりをする時には「ゆいとこにまわる」と自ら立候補するようになりました。できた!の喜びが自信に繋がった事がとても嬉しかった出来事でした。

(ひあくらふ 光川美希)



「はじめての夏休み

ワクワクドキドキの長い休みの始まり。活動では、週2回のプールと週1回の体操教室。少しは体が引き締まるかと思ったのですが、昼食作りなども週3回あります。

そめん流では、そめん30束を湯がき、各自おにぎり1個、フランクフルト1本を用意し、子ども11人大人4人で完食!見事な食べっぷり!! 育ち盛りの皆さんと同じように食べていると、思うようには...!(笑)しっかり食べて体を動かし、みんなでこの暑さも乗り越えました。

(くらふほん 銀川容子)



「お母ちゃん」

休日の登前です。「布巾返して」「そこ開けないで」「ダメダメ! 落とさないで!」と言うも、ささと走って行きました。食堂の窓から、高さ調節用の食台を二タニタしながら落とそうとしているのです。

「危ない! 下に人がいたらどうする!」と、つい大きな声になりました。反省顔?かのように頭を突き出して上目で見られるので、私も少し出してみました...ゴツッ! 「痛い! 石頭じゃねえ」とにらむ真似をすると「お母ちゃん」と小さい声が聞こえました。思わず「会いに来てくれたうえの(こね)と私。お母ちゃんは近くで見守っているよ。お母ちゃんの顔、忘れないと、窓夫さん。

(食事部 益田みどり)

「墓参り」

増長窓夫さんの母親の墓参りに行きました。出発前に石碑認するも、当の本人は「いいちゃんの墓参り」...さて、誰もいらない家に到着するやいなや革靴を脱ぎ屋根に投げようとしています。そして墓前では「母ちゃんの墓」と云ふと「母ちゃん」と言い、両手で頭を押さえ「ごめんねさい」と頭を下げます。イタズラ好きな窓夫さんと生前の母親とのやり取りが伺える、ちょと切ない一場面でした。そんな気持ちを抱きつつ墓を後にしますが、そこはタダでは終わらない窓夫さん。毛虫の毒にやられ目をしありと腫らしてしまいました。

(共同ホームひとは 村本悠樹)

「希望」

「パン」「橋本さん」「バス」「食べる」として「ナショ」とジースター。「運転手の橋本さんとバスの中で、そりパンを食べる」...はじめは三上さんの希望食談と窓で聞いていました。けれど時間と共にしていくうちに、三上さんの希望としていること気付きました。一日に何度も伝えてくれる三上さん。私も手足りりアワションを変えて希望に共感しています。

希望がかなうかどうかではなく、かかれていても望みを持っていること、そのことを話す人がいること、共感があること。さきほどのはまだ。(ひとは工房 細野尚子)

「優しさに包まれて」

数ヶ月前のある日、突然右耳が聴こえなくなった。さらうの仲間が我が事のように配してくれた。政本さんはいつも左側から声かけをしてくれ、苗箱洗浄で連絡しあう時は彼の方から動いてくれる。ただただ感謝。黒田さんはいつもニコニコ笑顔で接してくれる。現在はまっているのが、なぜかインドネシア語での挨拶。コミュニケーションがとれて最高である。今では「はい黒田さん。今日の調子はどう?」「いいよ、ありがとう」とここまで上達。毎日楽しく!! 働かせている。(就労センターあつぶ 常川宏)

「小さな1歩に大きな想いが...」

今日も折り鶴解体作業をしている部屋から元気の良い声がフロアまで届いています。その声が聞こえると、フロア隠やかになられ、メンテをしているさらうの仲間も、時おり返事をしているように元気の良い声を返し「みんな元気だね♪」と微笑ましい空気が流れます。元気な声の主である奥田さん。毎日ゆっくり1歩ずつ廊下やフロアを歩いています。先日はテーブルに手をついた状態で、自分から1歩を踏み出して歩き出す姿にみんなが励まし、応援する一場面も見られました。奥田さんの1歩に込められた「元気張るぞ!」という想いに、一緒に寄り添える存在であります。(ひとは作業所 加納吉大)

《看ボランティアに参加して》

自治会から 大庭直樹
このはいとんを越えて、島やうら
仙台鳥居園・平賀生沼のまちで、島・安浦
地区にボランティアとして参加した。
9月2日 広島駅 南口に10人が集合

三上さん
一番感じたのは水の大切さ。
海水浴の必要があると思ふ。
(長い文章を省略)
(まとめさせてもらひました。)

— 締集 後記 —

アメリカ帰(移住でアメリカに渡り帰郷した人)の
西本のじいさんはいつも人が来ていた。
同じアメリカの祖母について行き日本コーヒーを
飲むのもがんばるもの。

その西本の故郷にブルーブルーベビできる。
昨日起立式に参列させてもらひほるかに止
も前の記憶がよみがえる。
おじいさんの人柄がよく人の暮れブルー
ブルーになるには...。寿辰順子